

平成30年3月30日

和泉市長 辻 宏康 様

和泉市公共施設マネジメント
推進審議会 会長 辻 壽一

公共施設マネジメントの推進について（答申）

平成30年1月31日付け和泉総第2652号にて貴職から諮問のありました公共施設マネジメントの推進について、答申します。

今後の公共施設マネジメントの推進において、下記の事項について十分配慮されることを要望します。

記

1. 建物や設備の修繕・更新にかかる優先度の整理について

建物や設備の優先度を整理し、修繕・更新を行っていくことは有益な方策である。修繕する際には、今後の施設のあり方も踏まえた上で実施願いたい。

また、今後運用する中で課題が出た際は、優先度の整理方法について適宜修正されたい。

2. ESCO 事業の導入について

ESCO 事業は、光熱水費の削減分の中から改修費用を賄うことができる有益な事業である。導入施設の選定については、その施設の建替時期等を考慮した上で、市の利益が損なわれることのないよう検討されたい。

3. 予防保全型維持管理手法の導入による公共施設等の長寿命化の推進について

学校施設については、大半の施設が老朽化しているため、今後は、安全で良好な状態の施設を常時維持できるような手法を研究願いたい。

4. 富秋中学校区について

- ・ 地域まちづくり構想の検討に当たっては、地域住民の意見を幅広く募ることが重要である。そのため、参加者の多様性が担保されるよう、検討会議の仕組みや運営を検討願いたい。また、検討会議のみに限らず、地域住民の意見を幅広く集める手法を検討願いたい。
- ・ 学校をはじめ公共施設のあり方の検討については、建築年数や現状、将来予測だけでなく、設立された経緯など歴史や伝統についても考慮する観点が必要である。

5. 市庁舎の周辺施設について

公共施設の跡地については、売却だけが選択肢ではなく、地理的特性に応じた有効活用も考慮すべきである。

また、活用案で残っている市民体育館の建替検討については、同様の大型集客施設である市民文化ホールと一体的に、今後のあり方を検討されたい。